



2020年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年4月13日

上場会社名 Sansan株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4443 URL http://jp.corp-sansan.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長／CEO (氏名) 寺田 親弘
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員／CFO (氏名) 橋本 宗之 TEL 03 (6758) 0033
 四半期報告書提出予定日 2020年4月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年5月期第3四半期の連結業績（2019年6月1日～2020年2月29日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年5月期第3四半期	9,671	31.4	193	—	81	—	△94	—
2019年5月期第3四半期	7,361	—	△655	—	△684	—	△688	—

(注) 包括利益 2020年5月期第3四半期 △96百万円 (—%) 2019年5月期第3四半期 △686百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年5月期第3四半期	△3.05	—
2019年5月期第3四半期	△32.25	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年5月期第3四半期	21,253	10,125	47.6
2019年5月期	9,079	3,372	37.0

(参考) 自己資本 2020年5月期第3四半期 10,114百万円 2019年5月期 3,362百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年5月期	—	0.00	—	—	—
2020年5月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年5月期の連結業績予想（2019年6月1日～2020年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,221	29.5	591	—	485	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化についても見込んでいますが、現時点では精緻化が困難であることから、具体的な予想数値の開示は行っていません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年5月期3Q	31,138,853株	2019年5月期	29,432,353株
② 期末自己株式数	2020年5月期3Q	－株	2019年5月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年5月期3Q	30,857,908株	2019年5月期3Q	21,359,481株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「出会いからイノベーションを生み出す」というミッションを掲げ、「クラウドソフトウェア」に「テクノロジーと人力による名刺データ化の仕組み」を組み合わせた新しい手法を軸に、名刺管理をはじめとした企業やビジネスパーソンが抱えるさまざまな課題の解決につながるサービスを展開しています。具体的には、名刺をデータ化し、人と人のつながりを情報として可視化・共有できる、クラウド名刺管理サービス「Sansan」を展開するSansan事業と、ソーシャル・ネットワーク・サービスの仕組みを取り入れ、名刺をビジネスのつながりに変える名刺アプリ「Eight」を展開するEight事業を運営しています。また、両事業共通の基盤として名刺のデータ化等はデータ統括部門であるDSOC(Data Strategy & Operation Center)が担っており、新技術の開発とデータ入力オペレーションの改善を追求し続けています。

当社グループの提供する「Sansan」と「Eight」は、数多くの企業やビジネスパーソンが利用するサービスとなっているほか、名刺管理という基本的なビジネスニーズに根ざしていること、また、蓄積されていくデータや情報がサービスの土台となっていることから、他のサービスやデータベースとの連携可能性が高く、ビジネスにおけるプラットフォームになり得る要件を兼ね備えているものと捉えています。したがって、ビジネスプラットフォームとしての価値を高めていくことで、さまざまなビジネス機会にアクセスしやすいという特徴を有していると考えています。

当第3四半期連結累計期間においては、継続的な売上高の成長の実現に向け、人材採用をはじめとした営業体制の強化等に取り組みました。

この結果、Sansan事業及びEight事業ともに順調に推移し、当第3四半期連結累計期間における売上高は9,671,494千円(前年同期比31.4%増)、売上総利益は8,313,942千円(前年同期比34.4%増)、売上総利益率は86.0%(前年同期比1.9ポイント増)となりました。また、営業利益は193,904千円(前年同期は営業損失655,001千円)、経常利益は81,186千円(前年同期は経常損失684,255千円)となりました。なお、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、2020年3月12日、13日で予定していた当社主催のビジネスカンファレンス「Sansan Innovation Project 2020」や各種セミナーの開催を中止しました。その開催の準備等にかかった各種費用54,087千円を特別損失として計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失94,154千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失688,904千円)を計上しました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

①Sansan事業

Sansan事業では、「名刺管理から、働き方を変える」をコンセプトに、クラウド型の名刺管理サービス「Sansan」を法人向けに展開しています。「Sansan」の活用を通じて、例えば、「名刺交換情報が社内で共有されていない」「名刺情報が持つ価値に気付いていない」といった、企業が抱える課題を解決し、企業に眠る名刺を事業活動に使える資産に変えることで、ビジネスの「出会い」の価値を最大化できると考えています。ユーザー企業は名刺をスキャンするだけで、名刺情報が当社グループ及び外部の情報処理パートナーの入力オペレーター等により正確にデータ化され、クラウド型アプリケーションを通じて名刺管理機能を利用することができま。本機能では、各社員単位での名刺管理だけでなく、組織内での名刺情報の共有も可能となります。また、最新の人物情報が通知される人事異動ニュースの配信や一括メール配信機能等の幅広い顧客管理機能を備えています。

さらに、クラウド上の名刺データにはパソコンやスマートフォンから素早くアクセスが可能であり、検索機能や電話・メッセージ機能等の活用を通じて、ビジネスパーソンに生産性向上、業務改善、コストの削減といった効果を提供しています。また、組織内で名刺情報の共有や企業内の顧客データの名寄せ等が行えることで、ユーザー企業のビジネス機会の創出につながる高度なマーケティング活動、顧客管理等が可能になると考えています。

ビジネスモデルとしては、ユーザー企業の全社員によるサービス利用(全社利用)を前提としたライセンスへの月額課金を推進しています。ユーザー企業においてデータ化される名刺の枚数を基に算出されるライセンス費用に、オプション機能の利用料やスキャナレンタル料等が加算されたものが月額利用料となります。また、サービス導入時には、紙で保管している大量の名刺のデータ化や導入支援等の付加サービスを有料で提供しています。

当第3四半期連結累計期間においては、クラウド名刺管理サービス「Sansan」における契約件数及び契約当たり月次売上高のさらなる拡大に向け、営業人員の採用をはじめとした営業体制の強化等に継続的に取り組みました。この結果、大手メーカー等のサービス利用が進んだほか、価格戦略の見直しにより中小企業の新規契約獲得も順調に進み、当第3四半期連結会計期間末における「Sansan」の契約件数は前年同期末比14.8%増の6,587件、契約当たり月次売上高は前年同期比14.0%増の163千円となりました。また、強固な顧客基盤の実現に向け、既存顧客の利用

拡大に対する継続的な取り組みを行った結果、直近12か月平均の月次解約率(注1)は前年同期比0.18ポイント減の0.55%に改善しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は8,930,916千円(前年同期比27.9%増)、セグメント利益は3,235,948千円(前年同期比64.3%増)となりました。

2020年3月11日に新たな事業戦略「Sansan Plus」を発表しました。「Sansan Plus」は、業務効率化やデータ価値の向上を行うことができるビジネスプラットフォームであり、「Sansan」ユーザーは、さまざまな業務を「Sansan」上で最適化することが可能となります。

「Sansan Plus」は、「Sansan Plus App」「Sansan Plus Consulting」「Sansan Plus Integration」の3つの概念から成り立ちます。「Sansan Plus」では、「Sansan」が作る正確な名刺データのもと、各パートナー企業とともにさまざまなアプリケーションの提供や社内に蓄積するあらゆるデータの整備、デジタル活用のコンサルティング等を行うことにより、企業成長を後押しします。

まず、「Sansan Plus App」とは、外部サービスと連携し、「Sansan」上で利用できるオプション機能群であり、名刺データを入りに外部サービスと連携することにより、これまでになかった価値や機能を提供します。オプション機能は下表の通りです。

「Sansan Plus App」のオプション機能一覧

機能名	機能概要	提供時期(予定)
商談管理オプション for Salesforce	名刺交換相手企業に関連したセールスフォースデータの確認・商談状況の把握が可能	提供済
反社チェックオプション powered by Refinitiv	名刺をスキャンするだけで、反社チェックが可能	提供済
アンケートオプション powered by CREATIVE SURVEY	セミナー開催時のアンケート実施を効率的に行うことが可能	提供済
リファラル採用オプション for Eight	「Eight Career Design」と連携することで、社内人脈を活用した採用活動を実施可能	提供済
契約管理オプション for クラウドサイン	名刺交換相手企業と自社との契約状況を把握可能	2020年5月
企業情報オプション powered by 帝国データバンク	ユーザーが保有する帝国データバンク情報を名刺と紐付けて閲覧可能	2020年6月

次に「Sansan Plus Consulting」とは、各種「Sansan」サービスを活用した企業のデジタル化コンサルティング支援であり、このたび、アクセンチュア株式会社と連携しました。

そして、「Sansan Plus Integration」とは、社内に散らばるデータを統合するためのコンサルティングであり、toBeマーケティング株式会社及び株式会社リアライズとデータ統合領域にて協業しました。「Sansan」の提供するデータ統合ソリューション「Sansan Data Hub」と各社のソリューションを活用し、データコンサルティングを実施していきます。

加えて、リモートワークやオンラインでの働き方が急速に拡大していることを背景に「オンライン名刺/オンライン名刺交換」の搭載を決定しました。これらの機能を活用することにより、「Sansan」ユーザーは、自身の名刺情報をオンライン上でも手軽に送ることが可能になります。本機能は「Sansan」の基本機能として、2020年6月に提供予定です。

(注) 1. 「Sansan」の既存契約の月額課金額に占める、解約に伴い減少した月額課金額の割合

②Eight事業

Eight事業では、「名刺でつながる、ビジネスのためのSNS」をコンセプトに、単なる名刺管理だけではなく、ソーシャル・ネットワークキング・サービスの仕組みを取り入れた新しいビジネスネットワークサービスとして、名刺アプリ「Eight」を運営しています。

「Eight」の活用により、ビジネスパーソンが抱える「ビジネスの出会いを活かしきれていない」「名刺情報に容易にアクセスできていない」といった課題を解決できると考えています。「Eight」では、「Sansan」と同様に、名刺をスキャンするだけで、自分や交換相手の名刺情報が正確にデータ化されます。「Eight」では、まず利用ユーザーは自分の名刺を登録することで、ビジネスライフを通じて活用できる自身のページが作成され、プロフ

ィール管理が可能となります。次に、交換相手の名刺を登録することで名刺管理機能が活用でき、クラウド上にデータ化された全ての名刺情報には、スマートフォンやパソコンから、いつでもどこでもアクセスが可能となります。また、ネットワーキング・サービスを通じてつながった相手の情報に変更があった場合には、登録した名刺情報が自動で最新の状態で更新され、通知が届くようになります。加えて、ビジネスチャットが送り合えるメッセージ機能も利用でき、ユーザー自身が持つビジネスネットワークをよりスムーズに活用することが可能となります。さらに、興味のある企業の情報の収集や転職活動等にも活用できます。

ビジネスモデルとしては、プロフィール管理や名刺管理機能が無料で使用できるアプリをベースとし、一部利用機能を拡充したBtoCサービス「Eightプレミアム」と「Eight」における名刺共有を企業内で可能にするサービス「Eight 企業向けプレミアム」や「Eight」のユーザーに対して広告配信ができるサービス「Eight Ads」、「買い手」と「売り手」を効率的にマッチングさせ、生産性を上げるビジネスイベント「Meets」、転職潜在層のユーザーにアプローチ可能な採用関連サービス「Eight Career Design」等のBtoBサービスを提供しています。

当第3四半期連結累計期間においては、名刺アプリ「Eight」におけるBtoBサービス「Eight 企業向けプレミアム」等のマネタイズ強化に取り組みました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における「Eight 企業向けプレミアム」の契約件数は前年同期末比116.6%増の1,354件、「Eight」ユーザー数(注2)は前年同期末比29万人増の265万人と順調に伸長しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は740,577千円(前年同期比95.2%増)、うちBtoCサービス売上高は217,687千円(前年同期比27.1%増)、BtoBサービス売上高は522,890千円(前年同期比151.3%増)となりました。セグメント損益については、現在は将来の収益化に向けた先行的な投資を行っているフェーズであることから、セグメント損失715,289千円(前年同期はセグメント損失907,819千円)を計上しました。

(注) 2. アプリをダウンロード後、自身の名刺をプロフィールに登録した認証ユーザー数

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は21,253,128千円となり、前連結会計年度末に比べて12,174,012千円増加しました。これは主に、新株発行等による現金及び預金の増加6,555,520千円、およびウイングアーク1st社への出資を行ったこと等による投資有価証券の増加5,235,820千円によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は11,128,010千円となり、前連結会計年度末に比べ5,421,858千円増加しました。これは主に、ウイングアーク1st社への出資資金の調達のため借入をしたこと等による長期借入金の増加4,030,112千円、および1年内返済予定の長期借入金の増加1,063,302千円、並びに顧客企業から契約期間分の料金を一括で受領すること等による前受金の増加87,839千円によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産額は10,125,118千円となり、前連結会計年度末に比べ6,752,153千円増加しました。これは主に、当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う新株発行等により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,424,149千円ずつ増加したこと、並びに親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が94,154千円減少したことによるものです。また、2019年7月30日開催の取締役会決議に基づき、累積損失を早期に解消し、今後の柔軟かつ機動的な資本政策を実現するため、資本剰余金947,106千円を減少し、利益剰余金に振り替えています。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

Eight事業において、ビジネスイベント「Meets」の開催計画を第2四半期までの実績等を勘案し、大きく見直した結果、開催回数が減少する見通しとなりました。これに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、第4四半期に予定していた大型ビジネスイベント等の開催を見送ったこと等から、期初想定した業績を下回る見込みとなりました。

Sansan事業においては、前期下期より進めてきた営業体制強化の効果等によって、第3四半期まで前年同期比で順調な成長が続いています。新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、第4四半期においては、ビジネスカンファレンス「Sansan Innovation Project 2020」の開催を中止する等、新規契約の獲得面で一部不透明な事業環境となっているものの、概ね期初想定通りの業績推移を見込んでいます。当社業績の大部分を占めるSansan事業の既存契約においては、リモートワークや非対面営業といった多様な働き方が急速に拡大していますが、大きな影響は発生しない想定です。クラウド型名刺管理サービス「Sansan」は、2020年2月末における直近12か月平均解約率が

0.55%と低い水準にあることに加えて、場所や時間を問わず、高いセキュリティのもとで顧客情報にアクセスできるといった特徴を有することから、リモートワーク等の多様な働き方を支援する側面を持ち合わせています。また、料金モデルとして、あらかじめ年間の利用料金が決まる年間契約形式であること等から、短期的な事業環境変化の影響を受けにくい構造となっています。

以上の結果、連結売上高は13,221,000千円(前回公表値より595,000千円減)を見込んでいます。連結営業利益は、不透明な事業環境に鑑み、広告宣伝活動を中心とした一部の投資計画を柔軟に見直したことで591,000千円(前回公表値より133,000千円減)となる見込みです。また、連結経常利益は485,000千円(前回公表値より185,000千円減)の見込みです。

詳細については、本日2020年4月13日に別途開示した「営業外費用及び特別損失の計上並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,627,035	12,182,555
売掛金	318,354	330,996
前払費用	322,660	471,167
未収消費税等	266	301
その他	32,996	26,216
貸倒引当金	△2,704	△3,154
流動資産合計	6,298,608	13,008,083
固定資産		
有形固定資産	406,924	469,339
無形固定資産		
ソフトウェア	834,737	887,218
その他	390	293
無形固定資産合計	835,127	887,512
投資その他の資産		
投資有価証券	1,093,800	6,329,620
敷金	439,537	555,155
その他	5,118	3,417
投資その他の資産合計	1,538,455	6,888,193
固定資産合計	2,780,508	8,245,045
資産合計	9,079,116	21,253,128

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	96,169	92,989
短期借入金	18,000	80,000
1年内返済予定の長期借入金	133,134	1,196,436
未払金	770,424	760,223
未払法人税等	41,283	141,354
未払消費税等	184,745	251,566
前受金	3,923,177	4,011,016
賞与引当金	199,010	140,154
事業所閉鎖損失引当金	6,960	—
その他	55,868	146,353
流動負債合計	5,428,772	6,820,094
固定負債		
長期借入金	233,714	4,263,826
その他	43,664	44,089
固定負債合計	277,378	4,307,915
負債合計	5,706,151	11,128,010
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,812,501	6,236,650
資本剰余金	1,500,000	3,977,043
利益剰余金	△942,592	△89,640
株主資本合計	3,369,909	10,124,053
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△7,607	△9,598
その他の包括利益累計額合計	△7,607	△9,598
新株予約権	10,663	10,663
純資産合計	3,372,965	10,125,118
負債純資産合計	9,079,116	21,253,128

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
売上高	7,361,986	9,671,494
売上原価	1,175,608	1,357,551
売上総利益	6,186,378	8,313,942
販売費及び一般管理費	6,841,380	8,120,038
営業利益又は営業損失(△)	△655,001	193,904
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,462	1,590
解約違約金収入	6,750	2,149
その他	3,840	921
営業外収益合計	12,054	4,660
営業外費用		
支払利息	3,506	10,329
リース解約損	8,836	—
株式交付費	10,530	28,102
株式上場費用	—	15,049
支払手数料	2,002	19,457
為替差損	190	1,309
賃貸借契約解約損	16,130	—
持分法による投資損失	—	37,914
その他	112	5,215
営業外費用合計	41,307	117,378
経常利益又は経常損失(△)	△684,255	81,186
特別利益		
新株予約権戻入益	4,725	—
特別利益合計	4,725	—
特別損失		
固定資産除却損	3,976	6,421
減損損失	—	37,854
イベント中止損失	—	54,087
特別損失合計	3,976	98,363
税金等調整前四半期純損失(△)	△683,507	△17,177
法人税、住民税及び事業税	5,397	76,977
四半期純損失(△)	△688,904	△94,154
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△688,904	△94,154

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
四半期純損失(△)	△688,904	△94,154
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,639	△1,990
その他の包括利益合計	2,639	△1,990
四半期包括利益	△686,264	△96,145
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△686,264	△96,145

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,424,149千円ずつ増加し、一方で、累積損失解消のため資本剰余金947,106千円を減少し利益剰余金に振り替えたこと等により、資本金が6,236,650千円、資本剰余金が3,977,043千円、利益剰余金が△89,640千円となっています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年6月1日至2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	Sansan事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,982,603	379,383	7,361,986	—	7,361,986
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—
計	6,982,603	379,383	7,361,986	—	7,361,986
セグメント利益または損失(△)	1,969,968	△907,819	1,062,149	△1,717,151	△655,001

(注)1. セグメント利益または損失(△)の調整額△1,717,151千円は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

当第3四半期連結累計期間(自2019年6月1日至2020年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	Sansan事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,930,916	740,577	9,671,494	—	9,671,494
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—
計	8,930,916	740,577	9,671,494	—	9,671,494
セグメント利益または損失(△)	3,235,948	△715,289	2,520,658	△2,326,754	193,904

(注)1. セグメント利益または損失(△)の調整額△2,326,754千円は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

Sansan事業、Eight事業及び報告セグメントに帰属しない全社費用として、ソフトウェアについて帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失に計上しています。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、Sansan事業6,387千円、Eight事業9,648千円、報告セグメントに帰属しない全社費用21,818千円です。

(重要な後発事象)

株式の取得による持分法適用関連会社化

当社は、2020年4月3日開催の臨時取締役会において、SATORI株式会社(以下、SATORI社)の株式を取得することを決議し、2020年4月9日付で株式を取得しています。当該株式の取得により、当社のSATORI社に対する持株比率は27.4%となり、SATORI社は当社の持分法適用関連会社となります。

1. 目的

当社グループでは中長期的な株主価値及び企業価値の向上実現に向け、Sansan事業のさらなる成長及びEight事業の収益化に取り組んでいます。Sansan事業においては、「Sansan」のさらなる利用拡大のほか、外部のサービスとの連携や自社開発の強化等によって、「Sansan」のビジネスプラットフォームとしての展開を推進していくことも重要な成長戦略の1つとなっています。

このような戦略の下、当社がマーケティングオートメーションツールの開発・販売を行うSATORI社の株式を取得し、持分法適用関連会社化することで、サービス価値のさらなる向上に取り組みます。

2. 株式取得した会社の概要

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| (1) 名称 | : SATORI株式会社 |
| (2) 所在地 | : 東京都渋谷区桜丘町23-21 渋谷区文化総合センター大和田 11F |
| (3) 代表者の氏名・役職 | : 代表取締役 植山浩介 |
| (4) 事業内容 | : マーケティングオートメーションツールの開発・販売 |
| (5) 資本金 | : 1,513百万円 |
| (6) 設立日 | : 2015年9月 |

3. 取得後の所有株式数、取得価額及び取得後の持分比率

- | | |
|---------------|---|
| (1) 取得後の所有株式数 | : 46,646株 |
| (2) 取得価額 | : 取得価額は、相手方との守秘義務により非開示としていますが、専門家による株式価値評価を基に公正・妥当性を確保した上で、双方の協議によって決定しています。 |
| (3) 取得後の持分比率 | : 27.4% |

4. 支払資金の調達及び支払方法

自己資金により充当